

写真甲子園2017、第33回国際写真フェスティバル、第3回高校生国際交流写真フェスティバル、どんとこい祭り

夏だ、まつりだ、フォトフェスタ！

夏恒例、写真の町ひがしかわの国際写真フェスティバルが7月25日(火)から8月30日(水)まで、1カ月間のロングランで開催します。期間中、メインイベントとして「写真甲子園2017」「第33回国際写真フェスティバル」、13カ国・地域の高校生写真チームが写真を通して集い交流する「第3回高校生国際交流写真フェスティバル」、写真の町東川賞の授賞式と受賞作家トークショーなどが目白押し。国際色豊かに写真と触れ合う夏到来！(各行事日程は8ページ)

メイン会期は7月25日から同月30日の6日間。前半25

28日の4日間は、全国の高校写真部の代表18チームが東川旭川、美瑛、上富良野、東神楽の広い大地を舞台に、写真作品を作り、そして競い合う第24回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2017」。

初戦応募校は前年より1校少ないながら、道内44校など526校を数え、5年連続で500校超えを更新しました。初応募校は76校、初回大会か



ストリートギャラリー会場(昨年7月30日、文化ギャラリー前庭)

ら24回連続応募校は4校でした。

全国18校の選出は、各ブロック代表各1チームに加え、て応募校数に応じてドント方式で配分。初戦審査と各ブロック別の公開審査会を通して決定しました。

高校生国際交流写真フェスは13カ国・地域から16校

第3回高校生国際交流写真フェスティバルは、海外各国から出場する高校生が参加し



ゲーム「水の乱」(昨年7月30日、農村環境改善センター前駐車場)

交流を広げる場としてさらに内容が拡充します。

今年の海外選抜校は、マレーシア、ミャンマーの2カ国から新たに1校ずつ増え、アメリカ、インドネシア、ウズベキスタン、オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、タイ、中国、ベトナム、ラトビアの13カ国・地域から各1校、日本からは地元・東川高校と科学大学高校(札幌市)、そして尾道商業高校(広島・尾道市)の3校合わせて16校に増えました(国順は五十音順)。

撮影ステージは東川町内。写真撮影後は写真甲子園と同様に作品セレクトし、チーム作品を作り上げます。仕上げた作品は、審査委員審査(7人)とインターネット投票で世界中からの評価を競います(8ページ別表3を参照)。

29日(土)、30日(日)の後

半2日間は、「第33回写真の町東川賞」

の授賞式をメイン行事とする国際写真フェスティバル(フォトフェスタ2017)、どんとこい祭りでの夏の祭りが最高潮に盛り上がります。

今年11月、全国ロードショー公開予定の映画「写真甲子園0・5秒の夏」(2017年菅原浩志監督・脚本作品、シネボイス制作)のPRとして、映画予告と、主題歌を歌っている歌手、大黒摩季さんがどんとこい祭り会場

で映画主題歌を歌う予定。前夜祭・花火の饗宴と併せて特別コンサートで盛り上がることになりそうです(8ページ別表1を参照)。

道の駅・道草館ではソニーフォトワークショップ、プリントステップアップセミナー、モンベル大雪東川店ではキャ



ノンプリント体験コーナーと東京工芸大学・日本大学合同作品展、明治の家(羽衣公園)では「フォトふれNEXT PROJECT『EXHIBITION2017』」を開きます。

赤れんが倉庫では、恒例のオーデイション2017、赤れんが写真展(赤れんがポトフォリオオーディション2016グランプリ受賞作家作品展、ラトビアアサマースクール派遣作家作品展、アーティストインレジデンス作品展)も開催します。